

- 1 課題名 アユ資源モニタリング事業（野外冷水病調査）
- 2 区分 受託
- 3 期間 平成17年度～19年度
- 4 担当 内水面試験地（藤井久之・原田慈雄・加藤邦彰）
和歌山県内水面漁業協同組合連合会（小峠利勝）

5 目的
河川での冷水病対策を確立するため、有田川二川ダム上流域においてアユ冷水病の感染源を明らかにする調査を行った。

6 成果の要約

(1) 試験方法

ア 放流種苗の保菌検査

平成18年4月11日から4月25日に調査対象域に放流する人工種苗（県内産海産系・県外産湖産系）の保菌検査を行なった。検査は、飼育池ごとに60尾ずつ、計5池分採取して10%馬血清添加MCY培地を用いて行なった。

イ 冷水病発生状況のモニタリング調査

有田川二川ダム上流域にSt. 1～3（本流）、St. A、B（支流）の5定点を設け（図1）、4月10日～6月28日（計8回）にアユ及び河川在来魚を採捕し、保菌検査を行なった。検査は、10%馬血清添加MCY培地を用いて行なった。

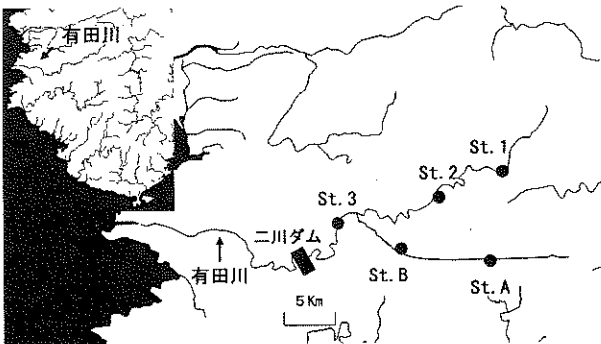


図1 調査河川の位置および調査定点

ウ 河川の付着藻類や泥からの冷水病菌の検出

7月28日、8月29日、9月26日、10月19日、平成19年2月6日にSt. 2、3、Aにおいて河川の石の付着藻類や泥を採取し、培養法及びPCR法により、冷水病菌の検出を試みた。

(2) 成果の概要

ア 放流種苗の保菌検査

保菌検査の結果は全て陰性であった。

イ 冷水病発生状況のモニタリング調査

採捕された魚種はアユを中心にオイカワ、カワムツ、ウグイ、カマツカ、ムギツク、シマドジョウ、アマゴの8種類で、このうち冷水病菌が検出されたのはアユのみであった。冷水病は、5月30日の調査までは確認されず、解禁（6月5日）から3日後の6月8日にSt. 3で1尾の保菌魚が採捕され、6月20日にはSt. 2、3、Bで、また6月28日には全定点で保菌魚が採捕された（表1）。平成16年から同様の調査を行っているが、3年間とも、放流種苗・オトリアユを無菌に徹底することで、放流から解禁までは冷水病の発生を防ぐことができたことから、河川での冷水病の発生は外部からの菌の持込が大きな原因の一つになっていると考えられる。

表1 有田川二川ダム上流域におけるアユの冷水病保菌検査状況

月/日	調査定点				
	St. A	St. B	St. 1	St. 2	St. 3
4/26				0/17*	0/35
5/10	0/26	0/32	0/30	0/31	0/30
5/18	0/6	0/17	0/32	0/32	0/34
5/30	0/8	0/31	0/41	0/32	0/32
6/8	0/33	0/29	0/31	0/31	1/33
6/20	0/28	6/14	0/26	21/42	13/35
6/28	11/33	5/10	5/13	9/22	8/24

* 陽性数/検体数

ウ 河川の石の付着藻類や泥からの冷水病菌の検出

7月28日から10月19日までは冷水病菌は検出されなかったが、平成19年2月6日にSt. 3の付着藻類からBS型冷水病菌が検出された。

7 成果の取り扱い

(1) 成果の普及

有田川漁協関係者を対象とした研修会及び県下河川漁協役員研修会にて結果を報告した。

(2) 成果の発表

平成18年度環境調和型アユ増殖手法開発事業結果報告書